

(仮称)

自然ふれあいの森

ニューズレター 第10号

平成16年11月30日発行 発行: 堀自然ふれあいの森委員会

堀自然ふれあいの森委員会報告

平成16年4月24日(土): 第25回委員会
 平成16年5月29日(土): 第26回委員会
 平成16年6月26日(土): 総会
 平成16年7月24日(土): 全体活動
 平成16年8月28日(土): 全体活動
 平成16年9月25日(土): 総会及び全体活動
 平成16年10月30日(土): 里山体験イベント

新しい運営体制にむけて

第25回委員会では、運営の仕組みを議論し、以下の班に全ての会員が所属する事となりました。

班	活動の概要
広報	内報交流紙「あしがしひろば」発行 外報向けニューズレターの編集補助
イベント企画	会員の学習機会の企画 外報受入イベントの企画
調査	森を知る(巨木/野鳥/昆虫/土壌) モニタリング(定点調査・実験区)
森の管理	下草刈り、間伐、広場や道づくり
農の管理	試験圃場(稲・水田)の管理 周辺農家との交流

昼からの全体活動では水田の準備作業と調査ルートづくりなどを行いました。

第26回委員会では、班活動の頻度や世話役の選出について話し合い、全体活動では水田のしろかき/みちづくり/林床管理などを行いました。

水田づくりにチャレンジ!!

6月6日(日)には、ガールスカウトの子供達にも参加してもらい、田植えを行いました。



6月には運営会議及び総会が初めて開催され、1ヶ月間の活動サイクル(1週目に運営会議、中旬に活動の案内、月末の土曜日に全体活動)や各班の活動計画、約束ごとの見直しなどについて議論されました。また、総会後は雨天のため、権茸の本伏と田んぼの観察のみを行いました。



新しい仲間づくり

7月の運営会議では各班からの報告の外、広報班7月号で呼び掛けた新規加入希望者へのオリエンテーションや水田の生き物の調査方法、委員会の約束ごと、イベントの提案などについて議論しました。

森の見学会

7月の全体活動では水路や水田付近の除草作業、林床管理区域の伐採樹木の搬出などを行いました。また、約20名の新規加入希望者には森の見学をして頂きました。

8月の運営会議では委員会ルールの見直し、新規加入希望者へのオリエンテーションの内容などについて議論しました。

8月8日(日)には「花と緑のまちづくり交流会サマーフェア」にクラフト教室を出展し、大勢の子ども達の参加を得ることが出来ました。

オリエンテーション 会員は68名に!

8月の全体活動では10月のイベントで

メイン会場となるコナラの丘に繁茂しているネザサの刈取などを行いました。また、新規加入希望者向けの現地見学会及びオリエンテーションも合わせて行い、最終的に32名の方が入会され、会員数は68名となりました。

約束ごとを見直す

9月の運営会議及び総会では班構成の確認、ルールの改定、里山体験イベントの内容・スタッフ編成などについて議論しました。総会当日の全体活動では、コナラの丘の整備、刈取ったネザサのチップ化、イベント時に利用するルートの除草、刈った稲を干すための準備(竹の切出し)などを行いました。



10月の運営会議では引続き里山体験イベントの打合せを行うと共に、敷地境界の示し方や道具の管理方法などについて議論しました。

実りの秋

10月14日(木)には稲刈りを行いました。また、田植えを体験されたガールスカウトの方々にも10月16日(土)に稲刈りの体験をしてもらう事が出来ました。

10月30日(土)には一般市民を招待し、里山体験イベントを行いました。(内面参照)

11月6日(土)には脱穀を行いました。

里山体験イベント『さとやまと“友達”になろう！』

(仮称)自然ふれあいの森は平成18年3月に身近な里山における自然学習や野外活動の場として開園する予定です。今回のイベントは開園後に来園者を受け入れる準備を進めて、自然ふれあいの森委員会が手作りで企画したものです。

平成16年10月30日(土)に行われた里山体験イベントは、秋深まる里山の魅力をより多くの皆様にも感じて頂くという主旨で開催されました。あいにく朝から雨降りの天気であったにもかかわらずスタッフを含め66名が参加。雨がしみ込んだ山は、いっそう森の香りを増し、晴れた日とは違った里山を体験する事ができました。



秋の里山は落ち葉のふかふかジュウタン

あいにくの雨だったため、予定していたプログラムを一部変更して開催することになりました。オープニングセレモニーのあと、ラジオ体操を終え里山探検へいざ出発!雨で滑りやすい道にドキドキしながら歩き出したのですが、森の中に入ると歩き心地がとてもよいので、ふと足もとを見てみると落ち葉が何枚にも重なりふかふかのジュウタンのようになっていました。いつしか歩くペースも早くなり木々や野花、野鳥の泣き声、と普段体験できないものがたくさん溢れていることに感動しました。



実際にふれて学ぶ自然学習

森に入ると、里山を代表する木の前に市民委員さんがいて、その木の説明を丁寧にしてくれます。アラカシ、コナラ、ヤマザクラ、一本ずつ木の説明を聞きながら、次の木へととまるで、オリエンテーリングのように、楽しく自然学習をしていきます。木には、それぞれ特徴があり、実際に手に取り観察しながら説明を聞くことが出来ます。はじめて木のことを学ぶ子どもたちにも、わかりやすかったと思います。今回の自然学習では、10本の木について学びました。(右ページ参照)

お芋掘りしました!

里山探検-自然学習の最後に待っていたのはお芋掘り!子供達が泥んこまみれになってもお構いなしに一生懸命小さな身体で頑張って、「ヨイショ、ヨイショ」とお芋のつるを引っ張る姿はいきいきして、とても可愛かったです。



里山の恵みに感謝! →

お昼ごはんの時にいただいたけんちん汁には、この里山でとれた野菜が使われています。雨で冷えた身体もバカバカになって大満足!



みんな優待生

お昼ごはんのあとは、自然学習で学んだ木についてのクイズ(全問正解者にはプレゼント)や、全員で里山についての〇×クイズをしました。



クラフト体験 → 里山の森で抱いた集めた木の葉や木の枝を使ってそれぞれがオリジナルのプローチや動物の置き物、キーホルダーなどを作って楽しみました。



← 里山の土 里山の腐葉土を手にとってみるととても柔らかくて土のいい匂いでした。この土が里山の森や生き物達の居場所になっています。

この木なんの木?

自然学習で学んだ里山の樹木を紹介します。

カキ

秋に葉は赤(黄色)くなるが、シメのようなのが付いて、まだらになる。果実は食用。葉(茶、和シブ等)も利用。



ヤマザクラ

樹皮は紫褐色で皮目が目立つ。葉柄に蜜腺あり。花を觀賞。



アラカシ

どんぐり(比較的小さい)の萼にシマシマがある。葉は大きく硬く厚い。樹皮は縦がかった灰褐色でキズは深い。



ネジキ

幹がぬじれる。幹や枝の樹皮に樹の裂目がある。葉は全縁で大きな葉状。



クロバイ

樹皮は黒褐色。皮目あり。木の因縁染織物として利用。葉は草質で光沢あり。



ソヨゴ

葉が風に吹かれると音を立ててそよぐ。幹は灰色で白い環状あり。



モチツツジ

うす紅色の花。ネバネバした臭い匂いで知られる。



リュウブ

樹皮が剥がれると、茶褐色で肌は平滑でぬめぬめ。若葉は食用に供される。秋に紅葉。



コナラ

どんぐり(細長い)。樹皮は灰褐色で、縦に割れ目がある。樹皮のはだ木に使用。この森に多い。



シリブカガシ

どんぐりの皮がくぼんでいる。葉のふちにギザギザがない。葉の裏は短毛密生し、銀白色に光る。



どんぐりにもそれぞれ個性があって、種子の形がいろいろあるんです!どんぐりを拾う時、観察してみてください。



イベントに参加して

今回のイベントの感想を参加者の方々にお伺いしました。

イベント参加者

- 10歳 いろいろな木の話が聞いた事と、山を歩いた事が楽しかった。
- 12歳 いろいろな木の特徴と見分け方がわかって良かったです。
- 4歳 いっぱいお芋を掘って楽しかった。それと、けんちん汁がおいしかったです。

- 8歳 山の中を探検できた事が楽しかった。
- 7歳 山に行った事と、お芋掘りした事が楽しかった。
- 41歳 いろいろな木の名前がわかった事が良かった。小さい頃、自然の中で遊んでいたのが懐かしいですね。

市民スタッフ

- 柴谷さん(司会-総務) みなさんにこの場所を知っていただいた事がなにより良かったです。これからもこの森ができるまで一歩一歩進んでいきたいです。
- 橋本さん(一般参加) 里山にこんな自然がある事に驚きました。もっと多くの子供さん達にこの自然に興味をもってふれてほしいです。
- 酒井さん(区報編集-樹木解説) 企画したクイズに皆さんで参加していただき、楽しんでいただいた事が良かったです。
- 飯尾さん(樹木解説) 「この木なんの木?」を熱心に聞いていただき、クイズでの成績が優秀だった事が良かったです。
- 清水さん(樹木解説) 樹木の森を知っていただき五感で感じていただいた事が良かったな~と思いました。
- 森さん(食事班) 会員になり初めて調理をやらせていただきとても楽しかったです。

みんなで集合写真

こうしてみんなの笑顔を見れば、里山での一日が大変充実したものであった事が伝わってきます。今回の企画を考えて準備をしてくれた市民委員のみなさん、そして参加した市民の方々みんなが今回のイベントを通して秋の里山を満喫できたのではないのでしょうか。



ちょっとお勉強のコーナー その8 「里山を彩る晩秋の草花」

山の秋といえば紅葉、山に入り天空を見上げると木々が美しく色を染めて広がっています。しかし、ちょっと足元を見てみると、可愛い草花もたくさん咲いていることに気づきます。今回は秋の草花、特に晩秋に咲く花を取り上げてみたいと思います。



ヤクシソウ

山野の草地や林縁などに多い過半草で、祖先や上級の属に直径1.5cmほどの黄色の筒状の花を数輪ずつつける。花期は8～11月で、花色は普通黄色だが喉に白色も見られる。



ナギナタコウジュ

日当たりのよい山頂などで見られる1年草。4～10cmほどの長さになる花穂は紫色で、一方に開いてつく。種全体がナギナタの属に属しているためこの名がついた。全株に強い芳香がある。



リュウノウギク

陽気や日当たりのよい山地で見られる多年草で、秋を代表する野草。花や茎を軽くこすると独特の香りがする。花色は白色で、霜が降りる時期になると淡い紅色がかかる。



リンドウ

山腹に生える多年草で10～11月下旬まで咲き続ける。花弁は5つに切れ込み、花の内側には茶褐色の斑点が見られる。花は日が当たると咲き、日が下ると閉じる。

※図「里山大賞典 いらばん身近な自然の図鑑」 大久保 茂雄・平野 伸明・新岡 孝

サトヤマコラム

「癒し」と「里山風景」 株式会社 編集 久下里奈

今、人々は「癒し」を求めています。

「癒し」という言葉を付けただけで商品が売れる時代となっています。しかし、それを買った人達は、本当に癒やされているのでしょうか。

「癒し」に必要な要素は、「行動」と「休養」だと言います。

里山は、その両方が存在する場所だと思います。実際、ふれあいの森で活動している皆さんは、体を動かし、その結果得られる成果と活動合間の休息に、心も身体も癒やされていることなのでしょう。

また、里山には、人が人と、人が自然とコミュニケーションをとる、里山ならではの「風景」があります。その「人のいる風景」が、さらに人々を癒すのでしょう。

里山は「本当の癒し」を得られる場所なのです。

ふれあいの森は、今の癒しを求める人々が訪れるべき空間なのです。今、話題の映画「今、会いにゆきます」の原作の一文でこんなものがあります。

“週末になると、ぼくらは町はずれの森に行く。コナラやクヌギ、エゴノキの葉が生い茂る緑の裡^{中に}では、タヌキやイタチ、そしてもっと

小さな齧歯類やさらに小さな昆虫たちが幸福に暮らしている。森を囲むように点在する小さな沼には、タナゴやワタカ、クチボソがいる。彼らは自分たちの世界を満足げに見渡しながら、優雅にヒレをそよがせている。…”

これは、恐らく著者・市川拓司氏が心に思い描く里山の風景なのでしょう。感動的なストーリーを演出しているのが、その世界を包むこの里山風景です。それはお洒落でもなく、芸術的でもありません。ただ、心が癒されるような、自然の風景です。

そうして考えてみると、「癒し」と「里山風景」という観点で、ふれあいの森は、20代30代の若い世代が訪れる場所としてのポテンシャルを十分持ちうるのではないのでしょうか。もしかすると将来、ふれあいの森の風景が映画のワンシーンを飾るかも知れません。また小説の情景描写のモデルとなるかも知れません。そんな日が訪れるように、こんな若い世代の視点に立った、ふれあいの森の見方もしてみてもどうでしょうか。

でも、何よりも、ふれあいの森が人々の癒しの風景として心に刻まれることが、私たちにあって一番嬉しい成果なのではないでしょうか。

問い合わせ先

堺自然ふれあいの森委員会 事務局
堺市 公園整備課
TEL:072-228-8174 FAX:072-228-1336

ホームページアドレス

http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_kouen/fureai/index.html

アクセス方法

